赤湯中学校
学校だより
鷺草（さぎそう）
南陽市立赤湯中学校
校長 大友 信昭 No. 3
令和６年５月１０日発行
南陽市椚塚 1815 番地
TEL：43-3370 FAX:43-3371

生徒会目標:「前進」 生徒が創る学校へ

５月２日（木）前期生徒会総会が行われました。生徒が創る学校を目指すうえで生徒会活動は最も重要な取組となります。学級討議を経て総会にて議論する過程は、民主主義の意思決定として意義があり、白熱した議論は今の赤中生の意識の高さを表しております。今年度の生徒会活動をイメージしていただくため、目標に係る議案書の一部を抜粋して紹介します。

【目標】前進

今年度の生徒会は、「当たり前のこと」を徹底すること、その「当たり前のこと」のレベルを上げることを軸に活動していきたいと考えています。当たり前の質を上げ、それを全校生徒が必然にできるようになれば、さらに質の高いあいさつ、行事、生徒会活動ができると考えます。そして、それを後輩にも伝えていけば赤中の誇るべき伝統として残るはずです。「前進」の「前」に当たり前の徹底とその向上の意味を込め、全校生徒が意識できるようにし、赤中全体の進歩につなげたいという思いを込めました。また、一人一人が当たり前について考え、行動していくことは、校是である「自主・自立」にもつながっていくと思います。

【重点目標１】積極的なあいさつの徹底

今年度は、目標である「当たり前の徹底」を達成するために、赤中五本柱の１つである「あいさつ」を強化する取り組みを行っていきます。この重点目標に入っている「積極的」には、大きな声で、相手の目を見て、自分からという意味が込められています。

この取り組みを行うことで、今年度のスローガンである、「前進」の達成に近づくと思います。また、積極的なあいさつをすることで、今まで以上にあいさつが赤中全体に響き渡り、赤中の自慢である「あいさつ」をさらに高められると思います。

【重点目標２】赤中生一人ひとりの自主的なボランティアの参加

赤中五本柱の１つである「奉仕」にも力を入れていきたいと思います。令和４年度には、ボランティアサークル「リボン」が組織され、赤中生全員が気軽にボランティアに参加できるようになりました。しかし、ボランティアに参加する人は限られている状況で、今年度はボランティアに参加する人が増えるよう、活動を行っていきたいと考えています。

ボランティアに自主的に参加することで、一人ひとりが赤中生徒会の一員だという意識を高めることができると同時に、地域との関わりが増え、赤中の良さを発信できると思います。

赤中の心強い応援団 【学校運営協議会】

５月９日（木）第１回学校運営協議会「赤湯中学校を耕す会」が行われました。赤湯中学校にゆかりの深い方々にご来校いただき、授業の様子を見ていただいたり学校の歩みについて説明させていただいたりして、生徒、教職員、学校に対しまして多くの勇気づけの言葉をいただきました。生徒、保護者の皆さん、赤中には地域の応援団がたくさんいますよ。

～　委員の方々のご意見（一部抜粋）　～

Ａ委員：学校を訪問してわくわくしました。授業が一番大事な教育活動であると考えますが、課題をしっかり確認している授業がとても良く、先生方が輝いていました。新聞等で拝見する赤中生が地域にこうなってほしいからこうしていきたい、盛り上げていきたいという内容に変化していて、赤湯プライドを持った子供が増えている実感があります。

Ｂ委員：赤中は生徒の力で地域と関わり合い、地域に参画する学校になりました。その根本となるのは生徒同士の人間関係であり、幼保小中一貫教育で培っていると感じています。授業は子供たちと一緒に作るものであり、子供たちの入ってくる隙を作ることも大事だと感じました。多くの機会に地域と関わり、地域の中に自分の存在があるように導いてほしいです。

Ｃ委員：若い先生の必死さが伝わってきたことがとても新鮮で、真摯に頑張る姿が素晴らしかったです。生徒も真剣な眼差しで授業を受けており、自ら学ぼうとする姿が見られ嬉しくなりました。社会に出てからのことを考えると、指示待ちではなく自主性を持った子供が赤中から育成されることを願っています。

Ｄ委員：様々な個性を持った生徒がいると思いますが、それぞれのニーズに応じた適切な対応をお願いしたいです。学校施設や給食等の備品について、生徒にとってより良いものは何かを考え、私たち地域住民も応援していきたいと思いました。特に、通学路等の安全点検については、学校から市当局に要望していくことも重要であると感じました。

Ｅ委員：県縦断駅伝における赤中の応援、横断幕などは素晴らしかったです。子供が「なんで？」と思う気持ちを育てるためには、幼児期に心を育てることが鍵だと教わりました。心が安定しないと「なんで？」とは思わないそうです。母性と父性について、保護者の方々と共に考えていき、「なんで？」と思える子供を育てていきたいです。

Ｆ委員：南陽市の教育が全国に先駆けて行った社学融合の理念について、社会教育の視点から振り返る必要があると感じています。地域総合型教育を体現していくためには、公民館と学校が連携・連動・一体化して教育を練り上げていく必要があります。赤中としての学力の定義を明確にしたうえで学力向上を目指し、起業家精神も生み出していってほしいです。

Ｈ委員：公民館と学校との連携について、今まで以上に密に連絡を取り合い連動した取組にしていきたいです。

Ｉ委員：授業は経験することで楽しみができる。全部できなくても１つのことに特化して取り組めるような人材を育成してほしいです。中川はイベントがありますので、赤湯の子供と関わりを持たせたいです。

生徒の様子や活躍について、ホームページでも紹介しております。

http://www.akatyu.sakura.ne.jp/